

論文

少年野球チームの指導者が指導時に見る選手のポイントについての検討

辰 本 頼 弘
追手門学院大学

巽 樹 理
追手門学院大学

松 山 博 明
追手門学院大学

馬 込 卓 弥
追手門学院大学
大阪大学

松 井 健
追手門学院大学

Investigation of Attention Points Focused upon by the Youth Baseball Team Coach

Yoshihiro TATSUMOTO
Otemon Gakuin University

Juri TATSUMI
Otemon Gakuin University

Hiroaki MATSUYAMA
Otemon Gakuin University

Takuya MAGOME
Otemon Gakuin University
Osaka University

Takeshi MATSUI
Otemon Gakuin University

Abstract

A series of questionnaire surveys was conducted and analyzed on 77 coaches who belonged to youth baseball teams, regarding their characteristics and coaching philosophy based on the attention points they focused upon while coaching players. Significant correlations were observed between the attention points of coaching and characteristics of coaches in five items of “volume of the voice,” “smile,” “guts,” “eye expression,” and “positivity attitude,” and between attention points of coaching and coaching philosophy in six items of “volume of the voice,” “high-spirited,” “Smile,” “care for others,” “skills,” and “guts.” Regarding coaching philosophy, the item of “Encourage players to practice to win” showed a correlation with the item of “smile,” thus players’ smiles (or laughter) expressed during practice in the team determined to win the game could be useful for mental training, which should be an effective coaching method.

キーワード：少年野球チーム，指導者，笑顔（笑い）

Keywords：Youth baseball team, coaches, smiles (or laughter)

I. 緒 言

幼少期のスポーツ活動は心身の発育発達に大きく影響し、その後の身体活動の基盤となる。学校においてのス

ポーツ活動（以下、部活動とする）であれ、地域でのスポーツ活動であれ、ひとつのチームに属し、一生懸命そのスポーツに取り組む姿勢は、将来のトップアスリートを夢見る子どもたちの想いが詰まっているのかもしれない

い。一層進む少子化の影響は、特に学校においての部活動に大きな変化をもたらしている。まず児童・生徒数の減少（令和3年12月22日 令和3年度学校基本調査（確定値）の公表について：文部科学省）に伴い、学級数や学校数の減少が見られ、部員不足による休部や廃部に伴い、子どもたちのスポーツへの興味関心が離れるとの懸念も指摘されている。また、スポーツニーズの多様化に伴い、狭義のスポーツ（勝ち負けを意識するレベルでのスポーツへの挑戦）に取り組む子どもたちばかりではなく、広義のスポーツ（勝ち負けよりも自身のペースで楽しむスポーツを実施）に取り組みたい子どもたちもいることから、学校での部活動への参加意義も様々であると考えられる。さらに、昨今問題とされている部活動の指導教員の負担増や競技の専門外教員が顧問・指導者につくケースも見られ、子どもたちにとってのスポーツ環境は必ずしも良い環境とは言えない状況も存在する。運動部の在り方に関する総合的なガイドライン（平成30年3月：文部科学省）では、「生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備」の中で、学校と地域が協働・融合した形での地域におけるスポーツ環境整備を進めることや学校と地域のスポーツ環境の充実を推進する等、4項目が策定されている。また「今後、少子化がさらに進むことを踏まえれば、ジュニア期におけるスポーツ環境の整備については、長期的には、従来の学校単位での活動から一定規模の地域単位での活動も視野に入れた体制の構築が求められる」とまとめられ、学校と地域の連携が今後より一層重要になっていくことを示している。このような状況から、地域における多様なスポーツニーズに対応できるスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等、地域住民が主となり活動している団体の充実是不可欠となる。特に約90%の小学生で構成されるスポーツ少年団では、令和3年度の全国登録団体は28,582団体（令和2年度29,212団体）、指導者数104,740名（令和2年度118,148名）、団員数569,586名（令和2年度562,157名）と1年間に団数および指導者が1,842団体、52,014名の減という登録であった（JSPO（公益財団法人日本スポーツ協会）令和3年11月29日（確定値））。指導者数の減少が大きく、指導者の減少は子どものスポーツ活動にも影響を及ぼす。指導者の減少の要因は、指導者の高齢化も含め、親世代のスポーツへの関りの変容も影響していると考えられる。これでは、学校現場での種々の問題を地域が連携して支えることは難しい状

況となり早急な対策が必要となる。指導者が減少しても、様々なスポーツの実践活動において公式試合や練習試合の場面があり、これに向けて選手・指導者は精一杯練習に取り組む姿が見られる。特に指導者の考えやトレーニング方法は選手の上達に影響を及ぼすことがあり、選手が楽しく活動できるか否かに関わる可能性も高い。

そこで本研究では、地域での活動を展開しているスポーツ少年団の野球チームの指導者に対し、選手たちを指導している時にどのようなポイントを見て指導をしているのか、また、そのポイントと指導に関する考えを調査することで、そこから求められる指導者像の一端を探り、子どもたちがスポーツ活動に楽しく取り組める方策や技能向上に向けての一助となることを目的として調査を実施した。

Ⅱ. 方 法

1. 調査対象者

対象者は、〇府Ⅰ市のスポーツ少年団野球チームの指導者（監督・コーチ等）にアンケートを依頼し77名から回答を得た。Ⅰ市の野球チームは16チームが所属しており、指導者の人数はチームにより異なっている。今回各チームにアンケート用紙を5部配布し指導者の多いチームはチーム内で5名を選んでもらい、5名未満のチームは該当する指導者に記入を依頼した。回答提出に関しては任意とした。また調査期間は、2021年12月4日から12月18日である。

2. 調査項目

本研究では、紙面によるアンケートによってデータの収集を行った。アンケート内容は、比較群として「指導者が選手を指導しているときに見るポイント」10項目を設定し、検定変数として「指導者自身について」の属性6項目と「指導に関する考え」の24項目についてアンケートを実施した（表1）。「指導に関する考え」の回答には5件法のリッカート尺度を用いた。なお、「選手を指導しているときに見るポイント」に関しては10項目から3項目を選択してもらい各変数と検定を実施した。今回調査をした指導者の属性に関しては結果のみ後記している。

3. 統計解析

「選手を指導しているときに見るポイント」の各設問

表1 調査項目

比較群	「指導しているときに見るポイント」 ①声の大きさ ②従順さ ③元気さ ④笑顔 ⑤気遣い ⑥技術 ⑦気合い ⑧根性 ⑨目つき ⑩積極性
検定変数	「指導者自身について」の属性 1) 性別 2) 年齢 3) チームでの役割 4) 現チームでの指導経験年数 5) 携わっておられるスポーツの経験の有無 6) 携わっておられるスポーツの経験年数 「指導に関する考え」 1) 規律・ルールをしっかり守らせている 2) 選手の悪口を陰で言わない 3) 人間性の育成を目指している 4) 様々なトレーニング方法を知っている 5) 試合に勝つために練習をさせている 6) 練習では飽きさせない工夫をしている 7) 選手の分析ができる 8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている 9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールしている 10) 選手に納得させる理論が説明できる 11) 試合中の指示が的確である 12) 対戦相手の分析をしっかり行うことができる 13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている 14) 感情に流されず判断や決断をしている 15) 言葉づかいは丁寧になっている 16) 選手によって指導方法を変えている 17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている 18) 客観的に物事をみることができる 19) アドバイスがシンプルでわかりやすい 20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる 21) 試合の反省を明確にしている 22) 保護者との連携を適切に行っている 23) チームの役割を選手に認識させている 24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている

と「指導者自身について」の属性6項目の検定には、フィッシャーの正確確率検定 (Fisher's exact test) を用いた。また、「選手を指導しているときに見るポイント」の各設問と「指導に関する考え」の24項目の検定には、マン・ホイットニー検定 (Mann-Whitney U test) を用いた。両検定とも有意確率は正確有意確率で計算を行い、検定は両側検定 (Two-tailed) で行った。なお、統計的優位水準はすべて5%未満とした。

4. 倫理的配慮

アンケート調査を実施するにあたり、調査用紙の表紙に、個人情報の保護とデータ管理のルールについて明記するとともに、アンケートは無記名で行いチームや個人が特定されることはない旨の説明を口頭で実施し協力をお願いをした。

Ⅲ. 結 果

1. 指導者の属性

指導者の属性 (表2) では、男性指導者が96.1%、女性指導者が3.9%であり、年齢は40歳代が最も多く58.4%、次いで50歳代が19.5%となり、両年代で77.9%の指導者を占める結果となった。また指導者のチームでの役割は、コーチが最も多く68.8%であった。指導経験年数をみると、1年から5年の指導者が67.6%と最も多く比較的指導歴の若い指導者が多数チームに関わっていることが伺えた。その反面、16年以上指導に携わっているベテランの指導者も5.5%存在していた。さらに野球経験のある指導者は73.7%を占め、経験年数も10年から15年未満の中堅指導者が24.6%を占めていた。経験年数30年以上のベテラン指導者も17.5%存在し、若い時期からの野球に対する取り組みも豊富であることが伺えた。逆に、野球経験がなく指導者になっている者も26.3% (回答者の約1/4) 占めていた。

2. 指導しているときに見るポイント (10項目) と指導者の属性の設問検定

指導しているときに選手たちを見るポイント10項目のうち、「声の大きさ」、「笑顔」、「根性」、「目つき」、「積極性」の5項目に指導者の属性との間に有意差が認められたが、他5項目のポイントについては属性と関係が認められなかった。

「声の大きさ」 (表3) については「性別」の比率

表2 調査対象者の属性

	項目	人数	%
性別	男性	74	96.1
	女性	3	3.9
年齢	10代	0	0
	20代	3	3.9
	30代	10	13
	40代	45	58.4
	50代	15	19.5
	60代	3	3.9
	70代	1	1.3
	80代以上	0	0
チームでの役割	監督	18	23.4
	コーチ	53	68.8
	マネージャー	0	0
	その他	6	7.8
指導経験年数	1～5年	50	67.6
	6～10年	12	16.2
	11～15年	8	10.8
	16～20年	1	1.4
	21年以上	3	4.1
本スポーツ経験	有	56	73.7
	無	20	26.3
有の場合の年数	5年未満	10	17.5
	5～10年未満	10	17.5
	10～15年未満	14	24.6
	15～20年未満	4	7
	20～25年未満	3	5.3
	25～30年未満	6	10.5
	30年以上	10	17.5

n.aを除く

($p=0.050$)・「チームでの役割」の回答の分布 ($p=0.009$)・「携わっているスポーツ (野球) の経験」の回答の比率 ($p=0.003$) の3項目に、笑顔 (表5) については「経験年数」の分布 ($p=0.024$) に、根性 (表8) については「性別」の比率 ($p=0.039$) に、目つき (表9) については「年齢」の分布 ($p=0.030$)・「スポーツ経験年数」の分布 ($p=0.004$) の2項目に、積極性 (表10) については「現チームでの指導経験年数」の分布 ($p=0.034$) にそれぞれ有意差が認められた。

表3 選手を指導しているときに見るポイント（声の大きさ）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント (声の大きさ)		P-value		
		該当の群 (n=29)	非該当の群 (n=48)			
問 1	1-1) 性別	男性	26 (89.7%)	48 (100.0%)	0.050*	
		女性	3 (10.3%)	0 (0.0%)		
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.675	
		20 代	0 (0.0%)	3 (6.3%)		
		30 代	3 (10.3%)	7 (14.6%)		
		40 代	18 (62.1%)	27 (56.3%)		
		50 代	6 (20.7%)	9 (18.8%)		
		60 代	1 (3.4%)	2 (4.2%)		
		70 代	1 (3.4%)	0 (0.0%)		
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
	1-3) チームでの役割	監督	2 (6.9%)	16 (33.3%)	0.009*	
		コーチ	23 (79.3%)	30 (62.5%)		
		マネージャー	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
		その他	4 (13.8%)	2 (4.2%)		
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	15 (57.7%)	35 (72.9%)	0.197	
		6 ～ 10 年	6 (23.1%)	6 (12.5%)		
		11 ～ 15 年	4 (15.4%)	4 (8.3%)		
		16 ～ 20 年	1 (3.8%)	0 (0.0%)		
		21 年以上	0 (0.0%)	3 (6.3%)		
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	15 (53.6%)	41 (85.4%)	0.003*	
		いいえ	13 (46.4%)	7 (14.6%)		
	1-5) -1 「はい」と回答した方のみ	スポーツの経験年数	5 年未満	3 (18.8%)	7 (17.1%)	0.486
			5 ～ 10 年未満	2 (12.5%)	8 (19.5%)	
			10 ～ 15 年未満	3 (18.8%)	11 (26.8%)	
			15 ～ 20 年未満	1 (6.3%)	3 (7.3%)	
			20 ～ 25 年未満	0 (0.0%)	3 (7.3%)	
			25 ～ 30 年未満	4 (25.0%)	2 (4.9%)	
			30 年以上	3 (18.8%)	7 (17.1%)	
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかりと守らせている		41.7	36.6	0.328	
	2-2) 選手の悪口を陰で言わない		38.6	38.4	0.958	
	2-3) 人間性の育成を目指している		39.2	38.1	0.839	
	2-4) 様々なトレーニング方法を知っている		36.2	39.8	0.478	
	2-5) 試合に勝つために練習をさせている		35.2	40.4	0.276	
	2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている		41.6	36.7	0.318	
	2-7) 選手の分析ができる		43.9	35.4	0.084	
	2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている		42.8	36.7	0.204	
	2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている		38.6	39.2	0.925	
	2-10) 選手に納得させる理論が説明できる		41.6	37.4	0.389	
	2-11) 試合中の指示が的確である		38.7	39.2	0.956	
	2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる		36.8	40.3	0.487	
	2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている		42.2	37.1	0.285	
	2-14) 感情に流されず判断や決断をしている		36.7	40.4	0.457	
	2-15) 言葉づかいは丁寧になっている		36.3	40.6	0.385	
	2-16) 選手によって指導方法を変えている		48.9	33.0	0.001**	
	2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている		42.9	35.8	0.143	
	2-18) 客観的に物事をみることができる		42.6	36.9	0.250	
	2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい		39.3	38.8	0.949	
	2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる		44.1	35.9	0.100	
	2-21) 試合の反省を明確にしている		40.3	37.4	0.553	
	2-22) 保護者との連携を適切に行っている		39.0	39.0	1.000	
	2-23) チームの役割を選手に認識させている		39.7	38.6	0.821	
	2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている		38.7	39.2	0.931	

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表4 選手を指導しているときに見るポイント（元気さ）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント (元気さ)		P-value	
		該当の群 (n=50)	非該当の群 (n=27)		
問 1	1-1) 性別	男性	48 (96.0%)	26 (96.3%)	1.000
		女性	2 (4.0%)	1 (3.7%)	
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.731
		20 代	1 (2.0%)	2 (7.4%)	
		30 代	7 (14.0%)	3 (11.1%)	
		40 代	28 (56.0%)	17 (63.0%)	
		50 代	10 (20.0%)	5 (18.5%)	
		60 代	3 (6.0%)	0 (0.0%)	
		70 代	1 (2.0%)	0 (0.0%)	
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	1-3) チームでの役割	監督	8 (16.0%)	10 (37.0%)	0.115
		コーチ	38 (76.0%)	15 (55.6%)	
		マネージャー	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
		その他	4 (8.0%)	2 (7.4%)	
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	32 (66.7%)	18 (69.2%)	0.567
		6 ～ 10 年	6 (12.5%)	6 (23.1%)	
		11 ～ 15 年	6 (12.5%)	2 (7.7%)	
		16 ～ 20 年	1 (2.1%)	0 (0.0%)	
		21 年以上	3 (6.3%)	0 (0.0%)	
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	36 (73.5%)	20 (74.1%)	1.000
	1-5) -1 「はい」と回答した方のみ スポーツの経験年数	いいえ	13 (26.5%)	7 (25.9%)	0.675
5 年未満		6 (16.2%)	4 (20.0%)		
5 ～ 10 年未満		7 (18.9%)	3 (15.0%)		
10 ～ 15 年未満		9 (24.3%)	5 (25.0%)		
15 ～ 20 年未満		3 (8.1%)	1 (5.0%)		
20 ～ 25 年未満		3 (8.1%)	0 (0.0%)		
25 ～ 30 年未満		2 (5.4%)	4 (20.0%)		
	30 年以上	7 (18.9%)	3 (15.0%)		
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかりと守らせている	38.8	37.9	0.869	
	2-2) 選手の悪口を陰で言わない	39.8	36.2	0.461	
	2-3) 人間性の育成を目指している	39.9	35.9	0.433	
	2-4) 様々なトレーニング方法を知っている	37.0	41.2	0.389	
	2-5) 試合に勝つために練習をさせている	40.5	34.8	0.244	
	2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている	42.2	31.9	0.037*	
	2-7) 選手の分析ができる	39.7	36.4	0.506	
	2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている	40.9	35.6	0.291	
	2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている	37.3	42.2	0.331	
	2-10) 選手に納得させる理論が説明できる	41.6	34.2	0.134	
	2-11) 試合中の指示が的確である	38.9	39.1	0.999	
	2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる	39.3	38.5	0.874	
	2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている	40.2	36.9	0.482	
	2-14) 感情に流されず判断や決断をしている	39.8	37.5	0.635	
	2-15) 言葉づかいは丁寧になっている	37.2	42.3	0.324	
	2-16) 選手によって指導方法を変えている	39.1	38.8	0.944	
	2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている	40.5	34.8	0.246	
	2-18) 客観的に物事をみることができる	39.7	37.7	0.695	
	2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい	39.1	38.8	0.961	
	2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる	42.3	32.9	0.063	
	2-21) 試合の反省を明確にしている	39.9	35.9	0.417	
	2-22) 保護者との連携を適切に行っている	38.4	40.1	0.730	
	2-23) チームの役割を選手に認識させている	39.4	38.2	0.803	
	2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている	39.1	38.8	0.953	

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表5 選手を指導しているときに見るポイント（笑顔）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント (笑顔)		P-value	
		該当の群 (n=22)	非該当の群 (n=55)		
問 1	1-1) 性別	男性	22 (100.0%)	52 (94.5%)	0.553
		女性	0 (0.0%)	3 (5.5%)	
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.859
		20 代	1 (4.5%)	2 (3.6%)	
		30 代	2 (9.1%)	8 (14.5%)	
		40 代	12 (54.5%)	33 (60.0%)	
		50 代	6 (27.3%)	9 (16.4%)	
		60 代	1 (4.5%)	2 (3.6%)	
		70 代	0 (0.0%)	1 (1.8%)	
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	1-3) チームでの役割	監督	8 (36.4%)	10 (18.2%)	0.245
		コーチ	13 (59.1%)	40 (72.7%)	
		マネージャー	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
		その他	1 (4.5%)	5 (9.1%)	
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	16 (72.7%)	34 (65.4%)	0.464
		6 ～ 10 年	3 (13.6%)	9 (17.3%)	
		11 ～ 15 年	1 (4.5%)	7 (13.5%)	
		16 ～ 20 年	0 (0.0%)	1 (1.9%)	
		21 年以上	2 (9.1%)	1 (1.9%)	
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	17 (77.3%)	39 (72.2%)	0.778
	1-5) -1 「はい」と回答した方のみ スポーツの経験年数	いいえ	5 (22.7%)	15 (27.8%)	0.024*
5 年未満		0 (0.0%)	10 (25.0%)		
5 ～ 10 年未満		4 (23.5%)	6 (15.0%)		
10 ～ 15 年未満		2 (11.8%)	12 (30.0%)		
15 ～ 20 年未満		1 (5.9%)	3 (7.5%)		
20 ～ 25 年未満		2 (11.8%)	1 (2.5%)		
25 ～ 30 年未満		2 (11.8%)	4 (10.0%)		
30 年以上		6 (35.3%)	4 (10.0%)		
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかりと守らせている	35.1	39.9	0.348	
2-2) 選手の悪口を陰で言わない	34.9	40.0	0.333		
2-3) 人間性の育成を目指している	35.0	39.9	0.343		
2-4) 様々なトレーニング方法を知っている	39.2	38.2	0.869		
2-5) 試合に勝つために練習をさせている	46.0	35.4	0.040*		
2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている	36.6	39.3	0.613		
2-7) 選手の分析ができる	40.0	37.9	0.703		
2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている	37.2	39.7	0.672		
2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている	43.0	37.4	0.295		
2-10) 選手に納得させる理論が説明できる	41.9	37.9	0.442		
2-11) 試合中の指示が的確である	41.0	38.2	0.601		
2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる	44.5	36.8	0.137		
2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている	33.1	41.4	0.104		
2-14) 感情に流されず判断や決断をしている	38.4	39.2	0.880		
2-15) 言葉づかいは丁寧にしている	43.2	37.3	0.275		
2-16) 選手によって指導方法を変えている	36.5	40.0	0.516		
2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている	40.4	37.8	0.638		
2-18) 客観的に物事をみることができる	36.8	39.9	0.574		
2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい	39.0	39.0	0.978		
2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる	37.0	39.8	0.599		
2-21) 試合の反省を明確にしている	39.7	38.0	0.759		
2-22) 保護者との連携を適切に行っている	37.6	39.6	0.712		
2-23) チームの役割を選手に認識させている	39.9	38.6	0.810		
2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている	34.5	40.8	0.238		

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表6 選手を指導しているときに見るポイント（気遣い）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント		P-value		
		(気遣い)				
		該当の群 (n=24)	非該当の群 (n=53)			
問 1	1-1) 性別	男性	24 (100.0%)	50 (94.3%)	0.548	
		女性	0 (0.0%)	3 (5.7%)		
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.600	
		20 代	0 (0.0%)	3 (5.7%)		
		30 代	2 (8.3%)	8 (15.1%)		
		40 代	15 (62.5%)	30 (56.6%)		
		50 代	5 (20.8%)	10 (18.9%)		
		60 代	2 (8.3%)	1 (1.9%)		
		70 代	0 (0.0%)	1 (1.9%)		
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
		1-3) チームでの役割	監督	6 (25.0%)		12 (22.6%)
	コーチ		17 (70.8%)	36 (67.9%)		
	マネージャー		0 (0.0%)	0 (0.0%)		
	その他		1 (4.2%)	5 (9.4%)		
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	16 (66.7%)	34 (68.0%)	0.571	
		6 ～ 10 年	4 (16.7%)	8 (16.0%)		
		11 ～ 15 年	3 (12.5%)	5 (10.0%)		
		16 ～ 20 年	1 (4.2%)	0 (0.0%)		
		21 年以上	0 (0.0%)	3 (6.0%)		
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	18 (75.0%)	38 (73.1%)	1.000	
		いいえ	6 (25.0%)	14 (26.9%)		
	1-5) -1 「はい」と回答した方のみ	スポーツの経験年数	5 年未満	5 (27.8%)	5 (12.8%)	0.638
			5 ～ 10 年未満	2 (11.1%)	8 (20.5%)	
			10 ～ 15 年未満	6 (33.3%)	8 (20.5%)	
			15 ～ 20 年未満	1 (5.6%)	3 (7.7%)	
			20 ～ 25 年未満	0 (0.0%)	3 (7.7%)	
			25 ～ 30 年未満	1 (5.6%)	5 (12.8%)	
		30 年以上	3 (16.7%)	7 (17.9%)		
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかりと守らせている		38.3	38.6	0.976	
	2-2) 選手の悪口を陰で言わない		39.6	38.0	0.744	
	2-3) 人間性の育成を目指している		37.2	39.1	0.696	
	2-4) 様々なトレーニング方法を知っている		45.9	35.1	0.033*	
	2-5) 試合に勝つために練習をさせている		37.8	38.8	0.846	
	2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている		38.0	38.8	0.889	
	2-7) 選手の分析ができる		39.3	38.1	0.819	
	2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている		37.4	39.7	0.692	
	2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている		33.3	41.6	0.103	
	2-10) 選手に納得させる理論が説明できる		40.4	38.3	0.675	
	2-11) 試合中の指示が的確である		38.5	39.2	0.917	
	2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる		41.5	37.8	0.461	
	2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている		39.1	38.9	0.982	
	2-14) 感情に流されず判断や決断をしている		34.3	41.1	0.181	
	2-15) 言葉づかいは丁寧に行っている		33.2	41.6	0.101	
	2-16) 選手によって指導方法を変えている		36.6	40.1	0.488	
	2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている		36.5	39.4	0.573	
	2-18) 客観的に物事をみることができる		39.5	38.8	0.890	
	2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい		41.8	37.7	0.427	
	2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる		32.0	42.2	0.048*	
	2-21) 試合の反省を明確に行っている		36.5	39.3	0.579	
	2-22) 保護者との連携を適切に行っている		38.7	39.2	0.934	
	2-23) チームの役割を選手に認識させている		33.8	41.4	0.133	
	2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている		36.8	40.0	0.528	

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表7 選手を指導しているときに見るポイント（技術）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント (技術)		P-value	
		該当の群 (n=25)	非該当の群 (n=52)		
問 1	1-1) 性別	男性	25 (100.0%)	49 (94.2%)	0.547
		女性	0 (0.0%)	3 (5.8%)	
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.304
		20 代	0 (0.0%)	3 (5.8%)	
		30 代	5 (20.0%)	5 (9.6%)	
		40 代	13 (52.0%)	32 (61.5%)	
		50 代	7 (28.0%)	8 (15.4%)	
		60 代	0 (0.0%)	3 (5.8%)	
		70 代	0 (0.0%)	1 (1.9%)	
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	1-3) チームでの役割	監督	5 (20.0%)	13 (25.0%)	0.922
		コーチ	18 (72.0%)	35 (67.3%)	
		マネージャー	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
		その他	2 (8.0%)	4 (7.7%)	
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	15 (60.0%)	35 (71.4%)	0.526
		6 ～ 10 年	4 (16.0%)	8 (16.3%)	
		11 ～ 15 年	4 (16.0%)	4 (8.2%)	
		16 ～ 20 年	0 (0.0%)	1 (2.0%)	
		21 年以上	2 (8.0%)	1 (2.0%)	
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	21 (84.0%)	35 (68.6%)	0.178
	1-5) -1「はい」と回答した方のみ スポーツの経験年数	いいえ	4 (16.0%)	16 (31.4%)	0.912
5 年未満		3 (14.3%)	7 (19.4%)		
5 ～ 10 年未満		3 (14.3%)	7 (19.4%)		
10 ～ 15 年未満		7 (33.3%)	7 (19.4%)		
15 ～ 20 年未満		1 (4.8%)	3 (8.3%)		
20 ～ 25 年未満		1 (4.8%)	2 (5.6%)		
25 ～ 30 年未満		3 (14.3%)	3 (8.3%)		
30 年以上		3 (14.3%)	7 (19.4%)		
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかり守らせている	40.5	37.5	0.608	
2-2) 選手の悪口を陰で言わない	37.9	38.8	0.836		
2-3) 人間性の育成を目指している	39.6	38.0	0.753		
2-4) 様々なトレーニング方法を知っている	37.2	39.1	0.700		
2-5) 試合に勝つために練習をさせている	37.9	38.8	0.883		
2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている	39.6	38.0	0.761		
2-7) 選手の分析ができる	34.3	40.5	0.220		
2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている	38.5	39.3	0.912		
2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている	40.5	38.3	0.653		
2-10) 選手に納得させる理論が説明できる	35.7	40.6	0.319		
2-11) 試合中の指示が的確である	37.7	39.6	0.721		
2-12) 対戦相手の分析をしっかり行うことができる	41.1	38.0	0.546		
2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている	42.5	37.3	0.300		
2-14) 感情に流されず判断や決断をしている	40.6	38.2	0.636		
2-15) 言葉づかいは丁寧にしている	45.0	36.1	0.082		
2-16) 選手によって指導方法を変えている	34.7	41.1	0.202		
2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている	37.2	39.1	0.706		
2-18) 客観的に物事をみることができる	37.9	39.5	0.761		
2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい	39.5	38.7	0.890		
2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる	41.8	37.7	0.427		
2-21) 試合の反省を明確にしている	37.1	39.2	0.678		
2-22) 保護者との連携を適切に行っている	45.1	36.0	0.074		
2-23) チームの役割を選手に認識させている	45.7	35.8	0.048*		
2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている	46.9	35.2	0.021*		

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表8 選手を指導しているときに見るポイント（根性）における各設問の検定の結果

			選手を指導しているときに見るポイント (根性)		P-value
			該当の群 (n=1)	非該当の群 (n=76)	
問1	1-1) 性別	男性	0 (0.0%)	74 (97.4%)	0.039*
		女性	1 (100.0%)	2 (2.6%)	
	1-2) 年齢	10代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1.000
		20代	0 (0.0%)	3 (3.9%)	
		30代	0 (0.0%)	10 (13.2%)	
		40代	1 (100.0%)	44 (57.9%)	
		50代	0 (0.0%)	15 (19.7%)	
		60代	0 (0.0%)	3 (3.9%)	
		70代	0 (0.0%)	1 (1.3%)	
		80代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	1-3) チームでの役割	監督	0 (0.0%)	18 (23.7%)	0.078
		コーチ	0 (0.0%)	53 (69.7%)	
		マネージャー	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
		その他	1 (100.0%)	5 (6.6%)	
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1～5年	0 (0.0%)	50 (67.6%)	検定不可
		6～10年	0 (0.0%)	12 (16.2%)	
		11～15年	0 (0.0%)	8 (10.8%)	
		16～20年	0 (0.0%)	1 (1.4%)	
		21年以上	0 (0.0%)	3 (4.1%)	
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	0 (0.0%)	56 (74.7%)	0.263
		いいえ	1 (100.0%)	19 (25.3%)	
	1-5) -1「はい」と回答した方のみ スポーツの経験年数	5年未満	0 (0.0%)	10 (17.5%)	検定不可
		5～10年未満	0 (0.0%)	10 (17.5%)	
		10～15年未満	0 (0.0%)	14 (24.6%)	
		15～20年未満	0 (0.0%)	4 (7.0%)	
		20～25年未満	0 (0.0%)	3 (5.3%)	
		25～30年未満	0 (0.0%)	6 (10.5%)	
		30年以上	0 (0.0%)	10 (17.5%)	
問2	2-1) 規律・ルールをしっかりと守らせている		15.0	38.8	0.605
	2-2) 選手の悪口を陰で言わない		20.0	38.7	0.605
	2-3) 人間性の育成を目指している		18.0	38.8	0.526
	2-4) 様々なトレーニング方法を知っている		1.0	39.0	0.013*
	2-5) 試合に勝つために練習をさせている		4.5	39.0	0.171
	2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている		6.0	38.9	0.211
	2-7) 選手の分析ができる		5.5	38.9	0.211
	2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている		10.0	39.4	0.468
	2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている		5.5	39.4	0.182
	2-10) 選手に納得させる理論が説明できる		3.5	39.5	0.143
	2-11) 試合中の指示が的確である		3.0	39.5	0.065
	2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる		2.5	39.5	0.078
	2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている		12.5	39.3	0.455
	2-14) 感情に流されず判断や決断をしている		6.0	39.4	0.208
	2-15) 言葉づかいは丁寧にしている		25.5	39.2	1.000
	2-16) 選手によって指導方法を変えている		34.0	39.1	1.000
	2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている		8.5	38.9	0.211
	2-18) 客観的に物事をみることができる		4.5	39.5	0.130
	2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい		2.5	39.5	0.052
	2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる		5.0	39.4	0.117
	2-21) 試合の反省を明確にしている		4.5	39.0	0.158
	2-22) 保護者との連携を適切に行っている		5.0	39.4	0.169
	2-23) チームの役割を選手に認識させている		5.0	39.4	0.169
	2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている		9.0	39.4	0.260

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表9 選手を指導しているときに見るポイント（目つき）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント (目つき)		P-value	
		該当の群 (n=10)	非該当の群 (n=67)		
問 1	1-1) 性別	男性	10 (100.0%)	64 (95.5%)	1.000
		女性	0 (0.0%)	3 (4.5%)	
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.030*
		20 代	2 (20.0%)	1 (1.5%)	
		30 代	1 (10.0%)	9 (13.4%)	
		40 代	4 (40.0%)	41 (61.2%)	
		50 代	2 (20.0%)	13 (19.4%)	
		60 代	0 (0.0%)	3 (4.5%)	
		70 代	1 (10.0%)	0 (0.0%)	
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	1-3) チームでの役割	監督	4 (40.0%)	14 (20.9%)	0.370
		コーチ	6 (60.0%)	47 (70.1%)	
		マネージャー	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
		その他	0 (0.0%)	6 (9.0%)	
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	6 (66.7%)	44 (67.7%)	0.913
		6 ～ 10 年	2 (22.2%)	10 (15.4%)	
		11 ～ 15 年	1 (11.1%)	7 (10.8%)	
		16 ～ 20 年	0 (0.0%)	1 (1.5%)	
		21 年以上	0 (0.0%)	3 (4.6%)	
	1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	6 (66.7%)	50 (74.6%)	0.691
	1-5) -1 「はい」と回答した方のみ スポーツの経験年数	いいえ	3 (33.3%)	17 (25.4%)	0.004*
5 年未満		0 (0.0%)	10 (19.6%)		
5 ～ 10 年未満		0 (0.0%)	10 (19.6%)		
10 ～ 15 年未満		2 (33.3%)	12 (23.5%)		
15 ～ 20 年未満		3 (50.0%)	1 (2.0%)		
20 ～ 25 年未満		0 (0.0%)	3 (5.9%)		
25 ～ 30 年未満		1 (16.7%)	5 (9.8%)		
30 年以上		0 (0.0%)	10 (19.6%)		
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかりと守らせている	31.4	39.5	0.329	
2-2) 選手の悪口を陰で言わない	35.3	38.9	0.638		
2-3) 人間性の育成を目指している	36.0	38.8	0.722		
2-4) 様々なトレーニング方法を知っている	34.4	39.0	0.589		
2-5) 試合に勝つために練習をさせている	36.1	38.8	0.717		
2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている	38.9	38.4	0.992		
2-7) 選手の分析ができる	35.5	38.9	0.654		
2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている	36.8	39.3	0.766		
2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている	46.7	37.9	0.228		
2-10) 選手に納得させる理論が説明できる	38.5	39.1	0.934		
2-11) 試合中の指示が的確である	42.2	38.5	0.624		
2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる	30.0	40.3	0.141		
2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている	43.4	38.3	0.461		
2-14) 感情に流されず判断や決断をしている	45.8	38.0	0.281		
2-15) 言葉づかいは丁寧にしている	48.2	37.6	0.145		
2-16) 選手によって指導方法を変えている	40.6	38.8	0.847		
2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている	31.0	39.6	0.210		
2-18) 客観的に物事をみることができる	43.8	38.3	0.458		
2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい	38.8	39.0	0.992		
2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる	39.6	38.9	0.934		
2-21) 試合の反省を明確にしている	41.0	38.1	0.697		
2-22) 保護者との連携を適切に行っている	49.2	37.5	0.097		
2-23) チームの役割を選手に認識させている	43.7	38.3	0.489		
2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている	43.1	38.4	0.528		

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

表10 選手を指導しているときに見るポイント（積極性）における各設問の検定の結果

		選手を指導しているときに見るポイント		P-value	
		(積極性)			
		該当の群 (n=55)	非該当の群 (n=22)		
問 1	1-1) 性別	男性	52 (94.5%)	22 (100.0%)	0.553
		女性	3 (5.5%)	0 (0.0%)	
	1-2) 年齢	10 代	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0.092
		20 代	3 (5.5%)	0 (0.0%)	
		30 代	8 (14.5%)	2 (9.1%)	
		40 代	35 (63.6%)	10 (45.5%)	
		50 代	8 (14.5%)	7 (31.8%)	
		60 代	1 (1.8%)	2 (9.1%)	
		70 代	0 (0.0%)	1 (4.5%)	
		80 代以上	0 (0.0%)	0 (0.0%)	
		1-3) チームでの役割	監督	14 (25.5%)	
	コーチ		37 (67.3%)	16 (72.7%)	
	マネージャー		0 (0.0%)	0 (0.0%)	
	その他		4 (7.3%)	2 (9.1%)	
	1-4) 現チームでの指導経験年数	1 ～ 5 年	37 (69.8%)	13 (61.9%)	0.034*
		6 ～ 10 年	11 (20.8%)	1 (4.8%)	
		11 ～ 15 年	3 (5.7%)	5 (23.8%)	
		16 ～ 20 年	0 (0.0%)	1 (4.8%)	
		21 年以上	2 (3.8%)	1 (4.8%)	
		1-5) 携わっておられるスポーツの経験はありますか	はい	43 (78.2%)	
	いいえ		12 (21.8%)	8 (38.1%)	
1-5) -1 「はい」と回答した方のみ	スポーツの経験年数	5 年未満	10 (22.7%)	0 (0.0%)	0.077
		5 ～ 10 年未満	9 (20.5%)	1 (7.7%)	
		10 ～ 15 年未満	11 (25.0%)	3 (23.1%)	
		15 ～ 20 年未満	2 (4.5%)	2 (15.4%)	
		20 ～ 25 年未満	3 (6.8%)	0 (0.0%)	
		25 ～ 30 年未満	3 (6.8%)	3 (23.1%)	
		30 年以上	6 (13.6%)	4 (30.8%)	
問 2	2-1) 規律・ルールをしっかり守らせている		37.9	40.0	0.729
	2-2) 選手の悪口を陰で言わない		37.4	41.4	0.429
	2-3) 人間性の育成を目指している		37.4	41.3	0.426
	2-4) 様々なトレーニング方法を知っている		39.7	35.4	0.426
	2-5) 試合に勝つために練習をさせている		38.5	38.4	0.996
	2-6) 練習では飽きさせない工夫をしている		38.1	39.5	0.797
	2-7) 選手の分析ができる		36.9	42.7	0.279
	2-8) 選手個人に対して先入観を持たないようにしている		36.5	45.2	0.083
	2-9) 選手間でもめ事が起こらないようにコントロールをしている		40.1	36.3	0.473
	2-10) 選手に納得させる理論が説明できる		38.0	41.5	0.499
	2-11) 試合中の指示が的確である		37.8	42.1	0.419
	2-12) 対戦相手の分析をしっかりと行うことができる		38.3	40.7	0.633
	2-13) 選手とのコミュニケーションを大切にしている		37.5	42.7	0.323
	2-14) 感情に流されず判断や決断をしている		41.3	33.3	0.131
	2-15) 言葉づかいは丁寧になっている		38.4	40.6	0.684
	2-16) 選手によって指導方法を変えている		40.0	36.5	0.516
	2-17) 選手の要望を聞いて、ポジションを決めている		37.2	42.0	0.360
	2-18) 客観的に物事をみることができる		38.8	39.4	0.918
	2-19) アドバイスがシンプルでわかりやすい		38.6	40.1	0.789
	2-20) すべてを教えず選手にできるだけ考えさせ、気づかせる		38.3	40.7	0.658
	2-21) 試合の反省を明確にしている		37.3	41.5	0.424
	2-22) 保護者との連携を適切に行っている		36.4	45.4	0.086
	2-23) チームの役割を選手に認識させている		36.9	44.3	0.163
	2-24) スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている		37.6	42.6	0.343

・問1の検定には、Fisher's exact test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、n (%) を示す。

・問2の検定には、Mann-Whitney U test (Two-tailed) を適用した。なお、表中の数値は、平均ランクを示す。

3. 指導しているときに見るポイントと指導に関する考えの設問検定

指導しているときに選手たちを見るポイント10項目と指導に関する考えの24項目についての関係をみると「声の大きさ」、「元気さ」、「笑顔」、「気遣い」、「技術」、「根性」の6項目に有意差が認められたが、他4項目については関係が認められなかった。

「声の大きさ」(表3)については「選手によって指導方法を変えている」($p<0.001$)、「元気さ」(表4)については「練習では飽きささない工夫をしている」($p=0.037$)、「笑顔」(表5)については「勝つために練習をさせている」($p=0.040$)、気遣い(表6)については「様々なトレーニング方法を知っている」($p=0.033$)・「すべてを教えずに選手にできるだけ考え、気づかせる」($p=0.048$)の2項目に、技術(表7)については「チームの役割を選手に認識させている」($p=0.048$)・「スタッフの育成やコミュニケーションを大切にしている」($p=0.021$)の2項目に、根性(表8)については「様々なトレーニングを知っている」($p=0.013$)にそれぞれ有意差が認められた。

IV. 考 察

指導している時に見るポイントと検定変数(指導者の属性および指導に関する考え方)に共通して有意差が見られた項目は「声の大きさ」、「笑顔」、「根性」の3項目であった。「声の大きさ」は、指導中の受け答えをはじめ、チームの雰囲気を作るためには非常に重要な役割を果たすものと考えられ、チームの統制を図るには欠かすことができない。はきはきとした声や声の大きさは選手の元気さや明るさ、また楽しさや笑顔につながるものと推察される。また選手の声の大きさは指導者の言葉がけとも連動する可能性も高い。運動やスポーツ時の声かけや言葉がけに関し渋谷(2015)は、競技者のやる気を高めるためには、「賞賛」と「鼓舞」などの言葉がけが有効であることを明らかにしており、さらに夏原(2018)は、スポーツにおける声かけは、注意の広がりや状況変化への気づきを促す知覚的效果があり、スポーツパフォーマンスを支える重要な特徴の一つであることを報告している。今回の調査で、「声の大きさ×選手によって指導方法を変えている」のスコアが有意に高かったことから、選手の声の大きさはやる気にも反映され、指導者はそれぞれの選手の特長や個性を把握しての指導につ

なげているものと思われる。

スポーツ場面においては様々な状況が存在し、それに応じて喜怒哀楽という感情を人は表す。特に「喜」や「楽」はプレーでの成功や勝利の場面を、「怒」や「哀」は失敗や敗北の場面を連想させる。本結果で有意差が認められた「笑顔」は大きく smile や laughter に分けられ「喜」や「楽」で表出される表情であり、練習時の成功体験や達成過程での向上で選手が出す表情を指導者は評価しているものと考えられる。辰本(2017)は、大学女子サッカー部の練習中の笑いの表出頻度と身体能力について、笑いがよくみられる者ほど身体能力が高い可能性を示しており、子どもたちにおいても楽しくプレーをすることは身体能力の向上につながる可能性も十分あると考えられる。今回の調査で、「笑顔×勝つために練習をさせている」のスコアが有意に高いことから、楽しく練習に取り組むことは、プレーの上達を促し、ひいては試合に勝利することにつながる大きなファクターであると推察される。また、楽しくプレーに取り組むことは現在の指導法にも合致しており、笑顔の頻出が勝利につながる指導になり得るかもしれない。

スポーツへの取り組みのひとつとして、最後まで頑張る姿ややり遂げる姿が美德とされ、到達点まで行かない者は「根性がない」と言われることがままある。岡部 他(2012)は、「根性」は勝利という目標達成のために精神を集中し、困難に屈せず継続する強固な意志のことで、その養成には、ハードトレーニングといわれる猛練習が重視された。と記しており、スポーツ界では東京オリンピック*が重要な役割を果たしたと述べている(*1964年の東京オリンピック)。この頃から、練習をすればするほど結果が出るはずという考えのもと、早期からの練習への取り組みは才能が開花するすると考え、大人と同じような練習に取り組むことが当たり前と指導をしていた時代から現在では指導方法も大きく変わり、いかに短時間で技能向上を目指すかが大きなポイントとなる。今回の根性の意味合いは、選手たちの取り組みや頑張りを根性と捉えているものであり、歯を食いしばり、長時間の練習や辛い練習を指すものではない。今回の調査で、「根性×様々なトレーニング方法を知っている」のスコアが有意に高いことから、限られた練習時間の中でやり遂げるためには練習で飽きささない多くの工夫が不可欠であることが示唆されたと考える。今回、共通して有意差が見られた「声の大きさ」「笑顔」「根性」は、

練習時の技能習得や上達には欠かせないポイントであることが示されたのではないかと考える。特にスポーツ少年団での活動は小学生が中心であることから、指導者のコーチングスキルが子どもたちの今後のスポーツへの取り組みに大きく影響を及ぼすことは大いに考えられる。前述、勝つために「練習をさせている」は選手の「笑顔」がポイントになっていることから、指導者自身が笑顔でポジティブな言葉を選手にかけることで、選手たちが、より高いパフォーマンスの発揮が可能となるのではないかと考える。

V. まとめ

本研究では、少年野球チームに所属する指導者77名に、選手を指導する際に見るポイントを基軸に指導者の属性および指導に関する考え方のアンケート調査を実施し分析を行った。その結果、指導しているときに見るポイントと指導者の属性には「声の大きさ」、「笑顔」、「根性」、「目つき」、「積極性」の5項目に、指導しているときに見るポイントと指導に関する考え方には「声の大きさ」、「元気さ」、「笑顔」、「気遣い」、「技術」、「根性」の6項目に有意な相関が認められた。

指導に関する考え方において、「試合に勝つために練習をさせている」の項目は「笑顔」と相関が見られることから、試合での勝利を目指すチームにとって練習中に表出する選手の笑顔（笑い）はメンタルトレーニングの活用にも通じる可能性が考えられ、指導法のひとつとして有効ではないかと思われる。

謝 辞

本研究にご協力いただいたスポーツ少年団野球チームの指導者の皆様に心より感謝申し上げます。

利益相反

本研究において、利益相反は存在しない。

文献

阿部征大, 富田幸博 (2018): スポーツ少年団の指導者に関する一考察ーボランティア指導者の職務遂行能力に着目してー, 日本体育大学紀要 47 (2), 181-190.
江上園子, 佐藤琢磨 (2016): ほめ方が児童の印象評価及び課題成績に与える影響, 愛媛大学教育学部紀要

第63巻, 67-71.

JSPO (公益財団法人日本スポーツ協会) 令和2年11月26日 (確定値), [https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/syonendan/2021/R3_tourokusu\(kakutei\).pdf](https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/syonendan/2021/R3_tourokusu(kakutei).pdf). 令和3年1月25日閲覧.

公益財団法人日本スポーツ協会総合企画委員会 (2018): 提言「今後の地域スポーツ体制の在り方についてージュニアスポーツを中心として

文部科学省 (2021): 令和3年度学校基本調査 (確定値) の公表について, https://www.mext.go.jp/content/20211222-mxt_chousa01-000019664-1.pdf. 令和3年1月15日閲覧.

夏原隆之 (2018): 運動時の声かけは周囲への注意にどのような影響を及ぼすのか, 千葉体育学研究 40 巻, 15-20.

根岸伸幸 (2002): スポーツ少年団における教育的効果の検証, 武蔵丘短期大学紀要第10巻, 61-83.

岡部祐介, 友添秀則, 春日芳美 (2012): 1960年代における「根性」の変容に関する一考察: 東京オリンピックが果たした役割に着目して, 体育学研究 57 巻, 129-142.

佐藤 健 (2011): スポーツと笑いー笑いの必要十分条件ー, 笑い学研究 18, 74-81.

渋谷 聡 (2015): スポーツ活動での言葉かけにおける競技者と指導者の認知の違いについてーやる気を高める言葉かけを対象としてー, 星槎大学紀要共生科学研究 No.11, 75-87.

スポーツ庁 (2018): 平成30年3月 運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/03/19/1402624_1.pdf. 令和3年1月10日閲覧.

辰本頼弘 (2017): 笑いの表情表出と身体能力の関係ー指導者評価からの一考察ー, 追手門学院大学スポーツセンター紀要第2号, 1-5.

矢澤久史 (2007): 指導者の言葉かけが子どものやる気と認知に及ぼす影響, 東海学院大学紀要, 29, 9-17.